

「つきたい力」を確実に身につけさせる算数授業の組み立て方

※「つめこみ」ではなく、「子どもの学び」を大切に授業展開を図るために※

【教師の手立ての5つのポイント】～効率よく、重要な問いを位置づけて、力をつけるために～

①教科書を中心に、手元で学習内容を随時確認させながら進める。

②理解を深めるため、できるかぎり活動を取り入れ、思考・判断・表現をさせる場を設ける。

(説明を聞くことをできる限り少なくして、児童・生徒が様々な活動を通して、思考・判断・表現していく場を重視していく)

②児童の「理解・同意・賛否」の表現の場として、「頷き」「挙手」を意識的に促し、それをもとに授業をすすめていく。

③児童の考えの表現・確認のために、「ノート」「ワークシート」への記述の場をできるかぎり設けるようにする。

④児童の考えの表現の場として、「ノート」「ワークシート」の記述を、教師が代弁したり、書画カメラ・ipadなどで、映像で映したりして、互いの考えの相違点をとらえさせていく。

⑤効率よくすすめていく工夫として、自力解決の時間はできる限り絞り込み、教師による児童相互の考えの紹介やそれに対する意思表示(頷き・挙手・つぶやきなど)を拾うとともに、板書に考えの違いを分かりやすく位置づけるなどして、思考・判断の場を効果的に位置付けていく。

※コロナ感染予防の観点からの留意事項※

- ・いわゆる「ペア」や「グループ」による学習の場・考え交流の場は、当面行わない。
- ・教室換気が十分にできている状況に限り、児童・生徒による質問や重要な意見などについて、重要な発言をさせる時は、教室内で「一人」に限るようにする。その際、児童同士が向き合っていないようにする。